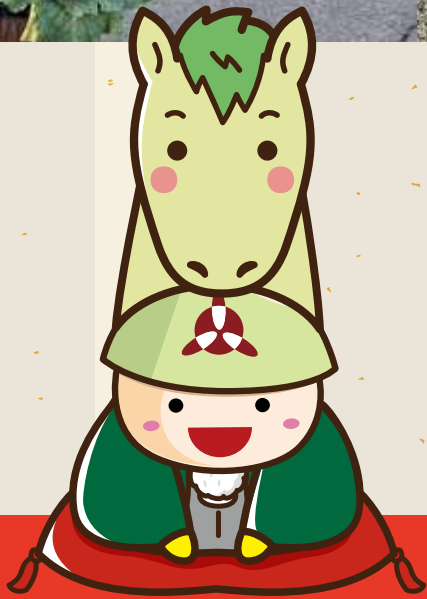


2026
第84号
NUKUMORI

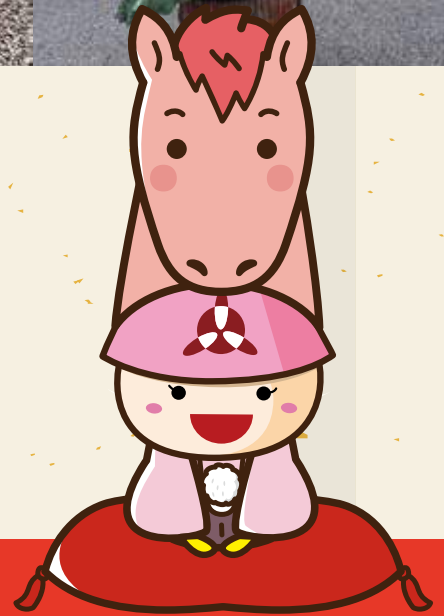
ぬくもり



謹賀新年



元旦



新年のご挨拶

社会福祉法人ともいき福祉会
理事長
栗原 正寛



謹んで新春のお慶びを申し上げます。
旧年中は当法人の運営に対し、ご利用者様、ご家族様、そして地域の皆様から多大なるご理解と温かいご支援を賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。

2026年の幕が開けました。本年の干支は「丙午（ひのえうま）」でございます。古来、丙午の年は「火の性質が重なり、非常に強いエネルギーに満ちた年」とされ、伝統的に情熱と行動力を象徴すると言われております。私たちはこの「強烈な活力」を介護業界が直面する大きな変革期を乗り越え、より良いサービスへと昇華させるための原動力に変えていきたいと考えております。

この年が私たちにとって大いなる飛躍と実り多い一年になることを期待し、新たな決意をもって職員一同前進してまいります。

さて、2026年の介護業界を見渡しますと、いわゆる「2025年問題」を通過し、少子高齢化に伴う労働力不足がいつそう深刻化する局面を迎えています。介護業界は高齢化の進展と人材不足という大きな課題と向き合いながら質の高いサービス提供を継続する努力を続けております。2026年に向けても介護職員の確保・定着、ICT・ロボット技術の活用による働き方の改善が業界全体の重要なテーマとして挙げられており、サービスの質と効率の両立を図る必要があります。特に介護現場の人材不足は長年の課題であり、さらなる処遇改善や魅力ある職場環境づくりが求められています。しかし、こうした逆風の中で明るい兆しも見えてまいりました。

昨年末、高市政権が発表した2025年度補正予算案には、私たちの背中を強く押してくれる「医療・介護等支援パッケージ」が盛り込まれました。特筆すべきは物価高騰への対応と並行して打ち出された、介護従事者全般に対する賃上げ支援、および生産性向上に取り組む事業所への上乗せを含む処遇改善策です。この補正予算は現場の負担軽減と人材確保につながる補助金や施設等への補助金として移動経費や食事提供の補助なども含まれており介護事業所の運営(経営)を支える後押し策として期待されています。

これらの施策は単に支援金額を拡充するにとどまらず、介護現場の労働環境改善とサービス向上に資するものであります。私たち法人もこうした政策を前向きに捉え、積極的に活用しながら、ご利用者様、ご家族様に安心と信頼の福祉サービスを提供してまいります。

供してまいります。

本年、ともいき福祉会が特に注力するのが「情報発信の強化」です。これからの時代、私たちは「良いケアをしている」だけでは不十分だと考えております。私たちの活動、職員の輝く笑顔、そして「ともに生きる」という理念が具体的にどのような形で行われているのかをSNSを通じて社会に広く、リアルタイムに発信してまいります。

Instagramや動画プラットフォームなどを積極的に活用することで、ご利用を検討されている方々には安心感を、そして未来の仲間となる学生や求職者の方々には、介護という仕事のやりがいと当法人の風通しの良さを伝えていきます。「この場所で働きたい」「この場所に預けたい」と感じていただけるよう、デジタル時代の「ぬくもりの伝え方」を模索し、採用活動と利用者促進の大きな柱へと育ててまいります。

法人の持続可能な発展のためには何よりも職員の心身の健康が不可欠です。昨今の働き方改革の流れを汲み、当法人では昨年より「休日の増加」と「柔軟な勤務形態」の導入を進めてきました。2026年はさらに一歩進めます。

「休みが増えることは、ケアの質が向上することである」しっかりと休息を取り、プライベートを充実させることで職員一人ひとりの心にゆとりが生まれます。そのゆとりこそが、ご利用者様への優しさや、細やかな気配りの源泉となると信じています。2026年は生産性の向上によって生み出した時間を職員に還元し、「地域で一番働きやすく、一番笑顔が多い職場」を目指して改革を断行してまいります。

丙午の強い勢いに乗り、社会福祉法人ともいき福祉会は守りに入るのではなく、攻めの姿勢で新しい時代の介護を切り拓いてまいります。変化を恐れず、デジタルの力を取り入れながらも、その根底にある「人間としてのぬくもり」を決して忘れることはありません。「ともに生きる」という法人理念のもと、地域に根差し、信頼される福祉の実践に邁進してまいります。

本年が、皆様にとって光り輝く、希望に満ちた一年となりますことを心より祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

大山市長
原 欣伸



みんなの心が「まーるく」なる

新年あけましておめでとございます。
本年もみなさんにとって輝かしく、よき年になりますよう心からご祈念申し上げます。
話しが少し逸れます。みなさん、アイスクリームは好きですか。わたしは、よく雪見だいふくを好んで購入します。選ぶ理由は、おいしさもありますが、雪見だいふくの裏

プタに書かれているメッセージを楽しんでいます。
メッセージの内容は、「みなさまへいつも雪見だいふくを食べていただきありがとうございます。突然ですが、雪見だいふく

のまーるい理由をご存じですか。毎日、一生懸命生きている中で、心がトゲトゲになってしまったり、疲れてへろへろになってしまうこともあると思います。そんな時、ゆったり雪見だいふくを食べていただいて、みなさまの心が『まーるく』なってくれたらいいな。雪見だいふくのまーるい形は、そんな思いを込めています。」と書かれていました。

頑張っている人たちに目を向ける雪見だいふくのメッセージがすごく素敵だし、好きです。ともいき福祉会と職員みなさんの想いも雪見だいふくと重なります。いつもみなさんの心を「まーるく」していただいてありがとうございます。みなさんの毎日の暮らしが幸せであるために、本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

特別養護老人ホーム ぬく森 第一
家族会代表 一戸久美子

新年あけましておめでとうございます。
入居者の皆様、ご家族の皆様、そして日々入居者の暮らしを支えてくださっている職員の皆様におかれましては、穏やかな新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。
私たち家族会は、入居者およびそのご家族の福祉の増進と相互の親睦を図るとともに、施設運営に寄与することを目的として活動しております。
昨年は、施設行事や日常の関わりを通じて、入居者の皆様が季節を感じ、笑顔で過ごされる姿を見ることができました。これもひと

えに、専門性と温かさをもって支援にあたられている職員の皆様のご尽力の賜物であり、家族会を代表して深く感謝申し上げます。
本年も、施設行事や交流の機会を大切にしながら、家族同士のつながりを深め、職員の皆様と連携し、入居者の皆様が安心してその人らしい生活を送ることが出来る環境づくりに、微力ながら役割を果たしてまいりたいと存じます。
結びに、皆様のご健康とご多幸を心より祈念し、新年のご挨拶といたします。

特別養護老人ホーム ぬく森
統括施設長 宇恵和美



私事ですが、昨年四月より、ぬく森・第二(安戸)から、ぬく森(橋爪山)に異動となり、本年は、十年ぶりに、新しい年を、ここ「ぬく森」で迎えております。
「十年一昔」と言いますが、十年前と変わらぬ環境に、安堵しつつ、小さな変化に刺激を受けながら、毎日楽しく充実して過ごすことが出来ています。
世界も日本も、様々な環境がまだ混沌としている中で、当施設が変わりなく運営し続けられていることは、大変幸せなことです。利用者様・ご家族様をはじめ、支えていただいているすべての皆様には感謝しかございません。これからも、皆様が「ぬく森」に求めること、福祉施設である私たちが出来ることに、いつでも応えられるように、職員一同、頑張っていく所存です。引き続き、皆さま方にはご指導・ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願いいたします。
さて、気候変動・地球温暖化の影響で昨年の夏も大変暑くて長かったことを思い出します。一昨年夏は暑く、そのことから、昨年の夏は今まで七月に行っていた納涼祭を九月に変更し、初秋の中での開催とさせていただきます。心配していた雨も、終

了間際まで落ちることなく、ご参加いただいた皆様が、楽しんでいただけたのなら幸いに思います。コロナ禍以降久しぶりに、「盆踊り」を復活させ、ボランティアの皆様の支援を受けて、「お祭り」らしさを取り戻した良き一夜となりました。
また、十一月には、中庭におきまして、6メートルの「もみの木」を彩る、恒例のイルミネーション点灯式が行われ、色鮮やかな豪快なイルミネーションをクリスマスまでの長い期間、利用者様には喜んでいただくことができました。
年末には、餅つき大会。そして、門松を飾って、新年を迎え、森林の香りと研ぎ澄まされた肌を刺す空気の中で、新しい年を歩み出しております。
感染症については、一年中予防を徹底していかなければならず、なかなか気を緩めることはできませんが、あの「コロナ禍」の習慣が、利用者支援において、職員の思考の柔軟さを妨げていることもあるように見受けられます。今年は、より一層、利用者様の生活を自由に豊かに、支援するスタッフも楽しく遣り甲斐のある施設づくりに励みたいと思います。
本年も、皆様にとりまして、健やかで穏やかな佳き年となりまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

ユニット型特別養護老人ホーム ぬく森
施設長 藤田雅徳



あけましておめでとうございます。
昨年は、介護報酬の地域格差や人件費・光熱費の高騰、サービス付き高齢者住宅の廃業増加など、福祉業界にとって大きな変化と課題の一年でした。また、生活保護受給者が過去最多となるなど、社会全体で支え合いの重要性が改めて問われる年でもありました。
一方で、2025年は大阪・関西万博の開催や、日本初の女性首相誕生、ノーベル賞受賞者の輩出、MLBでの日本人選手の活躍など、社会全体でも大きな出来事が相次ぎました。また、環境分野では循環経済や再生可能エネルギー推進、地域防災の強化など、持続可能な社会づくりへ

の動きも加速しています。
こうした状況の中でも、私たちは「安心・安全・尊厳」を守るケアの実現を目指し、職員一同力を合わせてまいりました。ご家族の皆様、地域の皆様、関係各所の皆様の温かいご支援が、利用者様の穏やかな暮らしを支える大きな力となっております。
本年も、サービスの質向上と職員環境の整備に努めてまいります。皆様には、引き続きご意見・ご要望をお寄せいただき、共により良いホームづくりにご協力いただけますようお願い申し上げます。
皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

特別養護老人ホーム ぬく森 第二
施設長 後藤規之



新年あけましておめでとうございます。
旧年中は、当施設の運営に多大なるご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございました。
2025年は、社会全体が「アフターコロナからの再構築」を本格化させた一年でした。オンライン化の浸透や高齢者福祉における人材不足への対策、地域共生社会の推進など、介護現場を取り巻く環境にも大きな変化が続きました。私が施設長として歩みを始めた年でもあり、こうした社会の動きに呼应しながら、施設として何ができるかを職員とともに問い続けた一年でした。
その中で改めて大切にしたいのが、前任の施設長が築いてこられた「入居者様の暮らしを中心に据える」という理念です。ユニットケアとは、お一人おひとりの生活リズムや好みに寄り添い、日常の小さな選択を尊重し、その人らしさを守るケアです。2025年は、その原点に立ち返り、ユニットごとに役割の見直しや環境の整備を進め、より家庭的で落ち着いた時間が流れるよう改善を重ねてまいりました。

また、社会全体が徐々に「つながりの再生」を進める流れの中で、私たちもコロナ禍で途絶えていたご家族との交流機会を再開することができました。特に各ユニットが企画した茶話会は、入居者様とご家族様が共に過ごす穏やかな時間となり、多くの笑顔が生まれました。ご家族様の参加が生活の張りにつながることを強く実感し、ユニットケアの価値を再認識した行事となりました。
2026年は、この「再生」の流れを一步進め、「つながりを育み、暮らしを創り彩り続ける施設」を目指してまいります。ユニットごとの特色を活かした取り組みの深化、地域との連携強化、介護の質向上に向けた研修体制の充実、そして社会のデジタル化に対応したICTの活用など、取り組むべき課題は多くあります。人手不足や働き方改革の推進といった社会的課題とも向き合いながら、入居者様・ご家族様・職員が「ここでよかった」と思える環境づくりを進めていきたいと考えております。
本年も変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆さまにとって穏やかで実り多い一年となりますことを心よりお祈り申し上げます。

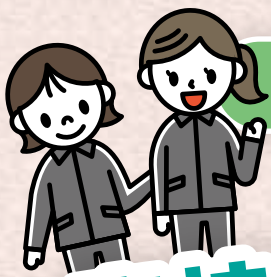
ぬく森の クリスマスツリー

点灯式

令和7年11月16日(日)、特別養護老人ホームぬく森にて、音楽と光で冬の訪れを味わう、ぬく森の恒例イベント。イルミネーション点灯式を開催しました。今年のツリーは、長野県から運ばれてきた6代目の本物のモミの木。高さは約6メートルで、運搬を担ってくださった佐橋造園さんから「形の良さは歴代でもトップクラス」と太鼓判をいただきました。この「6メートル」には、ぬく森ならではのこだわりがあります。3階の利用者さまの視点までツリーが届けば、目の前にある光を感じられる。その想いが「6メートル以上のモミの木」に込められています。設置から飾り付け、撤去まで毎年てんやわんやですが、点灯式からクリスマスまでの約1か月、やさしい光に包まれる夜を利用者さまと一緒に眺めたい。その一心で、職員一同準備を進めてきました。ツリー点灯前にはミニコンサート。トップは介護士の太田祐輔さんによる三味線演奏。凛とした音色が会場の空気を一気に整えてくださいました。続いて、デイサービスセンターぬく森の介護士の徳永万奈実さんと、酒井明美さんによるユニット「デュオアリエス」がバイオリン二重奏を披露。柔らかな響きがクリスマスの気配を運んでくれました。トリは「DEERHOUNDS」草野恭子様によるピアノ演奏と弾き語り。繊細さと力強さを併せ持つ歌声に惹き込まれ、軽妙なトークもあいまって、会場に一体感が生まれていきました。夕暮れから夜へ移るころ、いよいよ点灯の時間です。宇恵統括施設長の挨拶ののち、犬山市議会議員 大沢秀教様よりご挨拶をいただきました。また、犬山市長 原欣伸様からは欠席への残念な思いと、地域とのつながりがより深まることを願うメッセージが寄せられ、宇恵統括施設長が代読しました。続いて、プチローズ株式会社様ご協力による1メートル四方の特注オリジナルケーキがお披露目に。いちごのスタンダードケーキの上には、ぬく森のキャラクター「ぬく介」「ぬく実」が大きく描かれ、会場から驚きの声がありました。そして——「3・2・1 スイッチオン!」。各施設を代表して前に出てくださいました利用者さまがスイッチを押すと、ツリーに一斉にイルミネーションが灯り、歓声と拍手がホールいっぱいに広がりました。点灯後は、ご来賓の愛知県議会議員 中村貴文様のご発声で乾杯。大盛り上がりの余韻を楽しみながらイルミネーションを背景にケーキとジュースを囲む。ご利用者さま・ご家族さま・地域の皆さまと職員が、一緒にクリスマスのはじまりを分かち合うひとときとなりました。







愛知県立犬山総合高校2年生「地域探求I」



高校生と一緒に“幸せ”をかたちに

令和7年11月14日(金)・11月21日(金)の2日間、愛知県立犬山総合高校2年生の授業「地域探求I」を受け入れ、福祉を選択した生徒の皆さんと一緒に企画・実践を行いました。昨年に続く取り組みとなりましたが、今年も企画段階から生徒の皆さんが主体となり、試行錯誤を重ねながら準備を進めてくださいました。

今回の授業では、明確な答えのない「幸せとは何か」という問いに、高校生ならではの視点で向き合い、利用者様の“今の暮らし”に寄り添った企画が生まれました。実施当日は、施設のあちこちに笑顔があふれ、生徒さんと利用者様の交流そのものが、あたたかな「幸せの時間」となりました。

11月14日(金)

ダンスde エンジョイ

誰でも取り組みやすいオリジナルダンスを生徒の皆さんが考案し、健康づくり(フレイル予防)につながる企画として実施しました。体力維持や骨粗しょう症予防の観点も踏まえ、無理なく楽しく続けられる内容になっていたのが印象的でした。

事前にダンスの見本動画を作成し、ともいき福祉会のYouTubeアカウントに限定公開。イベント当日まで、利用者様と一緒に少しずつ練習を重ねました。当日は各ユニット・事業所を回りながら、生徒・利用者様・職員と一緒に踊り、自然な交流が広がりました。



11月14日(金)

遊び心を取り戻そう

当初予定していた取り組みは、担当生徒のクラスでインフルエンザが流行したため、やむなく実施を見送ることとなりましたが、日程と場所を変更し、デイサービスにて手作りのレクリエーションを実施しました。当日は、お年寄りの方でも無理なく楽しめるボーリングを行い、会場は大きな歓声と笑顔に包まれました。

手作りの景品を一人ひとりに手渡す場面では、自然と会話が生まれ、心が通い合う温かな交流のひとつとなりました。

思うように進まない経験も含めて、すべてが次の挑戦につながる大切な一歩。遊び心を忘れず、人と関わる楽しさを改めて感じる機会となりました。



11月14日(金)

ほっこりおやつカフェ

ショートステイ利用者様のユニットにて、生徒さんと職員が協力し、その場で手作りのどら焼きを振る舞いました。出来立てのおやつと生徒さんとの会話に、利用者様からは「おかわり!」の声もあがる大盛況となりました。

また、交流の様子をご家族にも伝えたいという利用者様のご希望を受け、生徒さんと一緒に思い出として映像に残す場面もありました。おやつ提供にとどまらず、心と心が近づく温かな時間となりました。



11月21日(金)

ファッションショー

利用者様にお気に入りの服や思い出のある品を身につけていただき、ランウェイを歩くファッションショーを行いました。舞台では生徒さんたちがインタビューを行い、利用者様のエピソードを伺いながら交流を深める企画です。

生徒さんが利用者様とのやりとりを上手に引き出してくださり、会場は笑いと拍手に包まれました。最後には、会場を盛り上げてくださった利用者様を表彰し、生徒さんと一緒に記念撮影。笑顔があふれる、心に残るひとときとなりました。



11月21日(金)

お出掛け大作戦

施設で暮らす高齢者が、なかなか訪れることが難しい場所を「映像で旅する」企画です。360度カメラを使用し、生徒さんが修学旅行で訪れた台湾の観光地を撮影し、動画を編集。

2台のプロジェクターで壁一面に映像を投影し、迫力ある景色を再現しました。

360度映像ならではの臨場感に「そこにいるみたい」という声もあり、昨年の花火大会企画に続き、映像を通じた体験の豊かさを感じる取り組みとなりました。



今回の「地域探求!」は、生徒さんの発想と行動力、そして利用者様の笑顔が重なり合う、かけがえのない2日間となりました。ご参加・ご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

クリスマス会

今年も皆様のご協力により、ぬく森はあたたかな賑わいに包まれたクリスマスシーズンを迎えることができました。イルミネーション点灯式では、冬の夜に灯る光を皆で見上げ、拍手と笑顔が広がりました。各事業所でも、それぞれ工夫を凝らしたパーティーが行われ、飾り付けや演出の中で、ご利用者が目を輝かせる場面が数多く見られました。笑顔と歓声にあふれ、まるで子どもに戻ったかのような表情に、職員も大きな力をいただいた一日となりました。来年もまた、皆様とともに心あたたまるクリスマスを迎えられるよう、職員一同取り組んでまいります。

橋爪山拠点



安戸拠点





年末恒例のもちつき大会を、今年も例年通り開催することができました。

各事業所それぞれ工夫を凝らしながら、ご家族様にも多数ご参加いただき、にぎやかな時間となりました。職員・ご利用者様・お子様も一緒になって杵を振り上げるたびに大きな掛け声が響き、会場は一体感に包まれました。つきたてのお餅は、あんこ・きなこ・さとう醤油などでおいしくいただき、「もう一つ!」とおかわりされるご利用者様が今年は特に多く見られました。おかわりが次々に出る様子に、「おいしくつけて良かった」と職員も安堵しつつ、笑い声と歓声があふれるもちつき大会となりました。皆様のお力添えのもと、今年最後の行事も、無事に終えることができました。職員一同心より感謝申し上げます。

橋爪山拠点



安戸拠点



特別養護老人ホームぬく森

季節の果物を使っておやつレク

本館では10月に季節の梨を使ってコンポートを作りました。大玉の梨に「大きいね〜」「こんな梨初めて見た」とびっくり！利用者さまに皮むきをお願いしたりしながら、完成！「こんな食べ方もあるんだね」「梨はそのまま食べるものだと思ってたよ」とおいしい😊の高評価を頂きました(*´▽`*)



ユニット型特別養護老人ホームぬく森

秋を満喫！一番の楽しみは…!?

今年も短い秋を少しでも満喫してもらえるように、いろいろな秋と一緒に楽しみました。スポーツの秋、芸術の秋、食欲の秋…一番喜んでいただけたのは食欲の秋でした。皆で鍋を囲み、ぐつぐつと煮えるすき焼きをみて、昔話に花を咲かせ、「うちの味付けは…」食材の形は…」と盛り上がっていました。



特別養護老人ホームぬく森・第二

季節の移ろいと心温まるひととき

長かった暑い夏が終わらないうちに、急に冷え込み今年の冬は寒くなりそうです。施設の中にも、田畑の色づきや施設の裏にある大銀杏の木が黄色くなるのを、皆さん楽しそうに毎日眺めていました。秋にはご家族をお招きしてのイベントも数々予定していましたが、インフルエンザ警報などに伴い中止になってしまい、参加を楽しみにしてくださったご家族の皆様には申し訳なく思っています。入居者の皆様には予定どおり、焼き芋大会など楽しんでいただくことができました。



ケアハウスハートフル

秋のお出かけと冬の彩りを皆さまと共に

暑い季節も落ち着き、外出企画で3名の入居者様と扶桑町にあるショッピングセンターへ出かけました。敷地内にあるカキフライの美味しいお店で4名一緒にカキフライ定食を食べてきました。帰りにケーキを購入され満足し帰所しました。また違う企画を考えていましたが、あつという間に寒くなりインフルエンザ警報が愛知県にも出てしまい、ケアハウスも外出制限となってしまいました。そんな中でもお楽しみ食事会やささやかながら、クリスマスを感じられるイベントを開催しました。





デイサービスセンターぬく森

外出企画「紅葉ツアー」

秋の外出企画で栗栖の桃太郎公園へ出かけました。紅葉は色づき始めでしたが、皆さま「外出が楽しみ」と出発前からウキウキと心躍らせている様子でした。車を降りて記念撮影をすると、室内とはまた違う開放的な笑顔が見られました。インフルエンザ警報の影響で、惜しくもツアーは途中で中止となりましたが、また次回、皆さまと心置きなく外出を楽しめる日を職員一同心待ちにしております。



デイサービスセンターぬく森・第二

笑顔あふれる秋の運動会

10月15日(水)、毎年恒例の運動会を開催いたしました。施設長の開会挨拶に続き、利用者さま全員による選手宣誓で幕を開けた今年の運動会。紅白に分かれて、玉入れやパン食い競争などで熱戦を繰り広げました。今年は見事「白組」が優勝し、輝くメダルが授与されました。競技の後は、美味しいおやつでホッと一息。心地よい疲れとともに、笑顔の絶えない一日となりました。



ぬく森サロン・五郎丸

手作り飾りでハッピーハロウィン！

10月30日、「サロン憩いの家」にてハロウィンイベントを開催しました。事前に手作りしたガーランドを飾り、雰囲気たっぷりの空間で「おかけ退治ゲーム」を楽しみました。ハロウィン帽子をかぶったの記念撮影では、皆さまの少し照れくさそうな、それでいて晴れやかな笑顔が印象的でした。最後は美味しいドリンクとお茶うけで、ほっと一息。手作りの温もりに包まれた、和やかなひとときとなりました。



保育所ぬく森

サンタさんがやってきた！ドキドキのクリスマス会

12月23日、ちよっぴり早いクリスマス会をしました。みんないい子にしてるからプレゼントくれるかなあ〜って可愛い衣装を身に付けて音楽を聴きながら踊っていると、どこからともなく鈴の音が「メリークリスマス！」と入ってきたサンタクロース、トナカイ、ツリー…びっくりして声が出ない子どもたち…ドキドキながらもプレゼントはちゃんともらっていました。「お家に帰ってから開けようね」の言葉に「まだ？」「もういい？」と待ちきれない子どもたちでしたが嬉しそうに帰っていき、お家で開けて遊んでくれたようでした。



施設長の観察日記

「竹あかり」

(放送日:12/19)

12月19日、養護老人ホームぬく森にて、愛知県立犬山総合高校3年生の生徒さんによる「竹あかり」イベントが行われました。企画立案から材料手配、機材準備まで生徒さん自身が担い、当法人は高齢者施設としての立場から、生徒さんと意見を交わしながら、実施に向けて協力させていただきました。

当日、生徒さんは朝から竹を準備し、道具を抱えて来所。利用者様への説明、制作の手伝いまで落ち着いて進める姿に、「頼もしい若者が育っ



ている」と感心させられました。利用者様も、自分の手で仕上げた竹あかりを手に、満足そうな笑顔に。やさしい光とともに、交流そのものが心に残る贈り物になったように思います。

数年後、こんな若者が当法人の仲間になってくれたら——そんなことに思いを馳せながら、交流の風景を眺めていました。

ぬく森・第二施設長 G



新入職員紹介



職員一同頑張りますので
宜しくお願いします。



介護士
寺田



介護士
ワタナベ



介護士
菊池



介護士
小濱

ご協力ありがとうございました

令和7年10月1日～令和7年12月31日
※敬称略・順不同

ボランティアありがとう

まちネット大口おりひめ
なごみ
石田智明
宮嶋雅代
吉田英翠

激励ありがとう

草野恭子 (DEER HOUNDS)
酒井明美 (デュオアリエス)
朗読クラブまどか

善意ありがとう

武藤慎一
宗本大史郎
村上敏治
移動美容室「ひまわり」
(福) 犬山市社会福祉協議会城東支部
(福) 犬山市社会福祉協議会
犬山市共同募金委員会
犬山市老人クラブ連合会
(福) 中部善意銀行

